

おくすり通信

No. 14 新しい睡眠薬

こんにちは、薬剤科です。No.11 から連続して睡眠薬の解説をしてきましたが、ここで一区切りとなります。今回は今まで取り上げてきた BZ 受容体作動薬以外の新しい睡眠薬の特徴をみていきましょう。

《新しい睡眠薬》

今までの不眠の薬物治療は BZ 受容体作動薬が主流でしたが、近年になって新しい作用機序をもつ睡眠薬が出てきました。2010 年にメラトニン受容体作動薬のラメルテオン（商品名ロゼレム）が、2014 年にはオレキシン受容体拮抗薬のスポレキサント（商品名ベルソムラ）が日本で発売されました。

《メラトニン受容体作動薬：ラメルテオン（体内時計に働きかける）》

私たちの脳内にはメラトニン受容体という体内時計に関与する受容体があります。この受容体には MT₁ 受容体と MT₂ 受容体が存在し、MT₁ 受容体は体温や血圧を下げることで入眠を促し、MT₂ 受容体は体内時計を調整します。メラトニンはこれらの受容体に働きかけて体内時計を調節しています。1 日のうちに量が変動する物質でもあり、光を浴びると分泌が抑制されますが、日中に光を浴びていると夜の分泌が促進されます。



ラメルテオンはメラトニン受容体を刺激することで覚醒と睡眠のリズムを整えてくれます。それにより脳と身体の状態が覚醒から睡眠へと切り替わり、鎮静によらない自然な睡眠が誘導されます。効果が出るのに 2 週間程度かかりますが、副作用は他の睡眠薬と比較すると少ないとされています。

《オレキシン受容体拮抗薬：スポレキサント（覚醒状態を抑える）》

オレキシンは神経を活性化させる物質で、脳のオレキシン受容体を刺激することで覚醒状態を維持します。オレキシンも 1 日のうちに量が変動する物質で、日中は増加して覚醒状態を維持し、夜になると減少して覚醒状態が維持できなくなります。



スポレキサントはオレキシンが受容体へ結合するのを邪魔します。そうすることで覚醒の維持を妨げ、自然な睡眠を誘導します。

不眠の治療には薬の他にも行動療法など様々あります。ご自分に合ったものが見つかるといいですね。

そのほか、気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。